



奈良時代の服装パック

唐風(中国風)の文化



しょうとくたいし

聖徳太子の政治や、「大化の改新」によって、政治の仕組みが整えられ、奈良時代には天皇を中心とした政治が確立されました。天皇は、中国^{とう} [唐] へ使者^{けんとうし} [遣唐使] を送り、皇帝中心の政治のしくみや文化を学ばせました。遣唐使たちは、中国 [唐] で政治や文化を学び、日本へと持ち帰りました。そのため衣服も中国 [唐] の影響を受けて成立したと考えられています。そのうちの 하나가、朝服^{ちょうふく}です。

男性の朝服は、奈良時代の一般的な役人が役所に勤務するときに着用したものです。女性の朝服は、当時の身分の高い人の姿です。





室町時代の服装パック

武家の礼服



鎌倉時代、貴族の日常着である水干すいかんを着やすくした直垂ひたたれが、武士の日常着となりました。室町時代になると、袖が広くなり、胸元や袖などに飾り紐ひもや家紋をつけるなど装飾性を高めた直垂が、武士の礼服として着られるようになりました。

室町時代、武家の女性の礼服は、小袖こそでと呼ばれる袖口が小さくなった着物に、もう1枚豪華な織物の小袖をかけました。これを打掛うちかけと呼びます。安土桃山時代には、この打掛を腰に巻きつけた腰巻こしまきという服装が流行しました。





武士のよろいパック

合戦時の武士の姿

戦国時代に登場した^{よろい}鎧で、^{やり}槍から身を守ることを考えてつくられています。しっかり身を守り、かつ動きやすさを求めた結果、このような二枚胴のものが増えていきました。また、鉄砲の出現により、胴を守る鎧だけでなく、顔につける^{ほおあて}頬当なども着るようになりました。材質は鉄で、表面は^{うるし}漆で仕上げられています。





新しい「れきハコ」の 貸出について

◇貸出パック

武士のよろいパック、奈良時代の服装パック、室町時代の服装パック

◇貸出対象

愛媛県内の小学校に主に貸し出します。

◇貸出期間

2週間以内（輸送期間を含む）

◇申込方法

2週間前までに電話で仮予約の後、資料館外貸出許可申請書に記入して郵送して下さい。

（資料館外貸出許可申請書は博物館のHPからダウンロードできます。）

◇貸出費用

無料

（ただし、配送の場合は送料が必要になります。）

◇その他

れきハコの取り扱いにあたり、それぞれのハコに入っている内容物チェック表の下に記された「使用するにあたっての注意」を御覧ください。

資料を破損した場合は、修理をせずに博物館へご報告ください。